



ランチョンセミナー5.

睡眠研究の過去・現在・未来

2017年6月29日(木) 11:50~12:40

パシフィコ横浜 会議センター E会場
3階「303」

座長 小林 敏孝

足利工業大学睡眠科学センター センター長

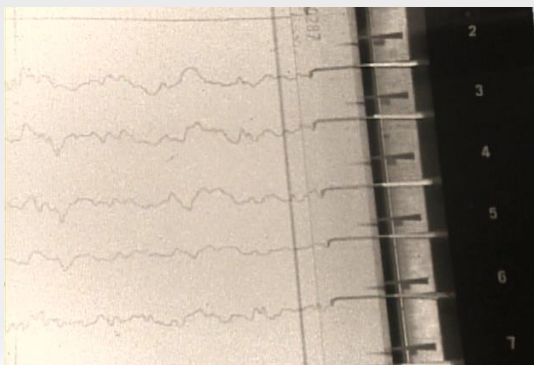
演者 遠藤 拓郎

東京睡眠医学センター センター長

慶應義塾大学医学部 睡眠医学研究寄附講座 特任教授

祖父青木義作が、1927年小説「榆家の人々」のモデルとなった青山脳病院に勤務し臨床睡眠研究を始めた。父遠藤四郎が1950年代より終夜睡眠ポリグラフィを使い精神生理性不眠の研究をはじめ、その後時差ボケの研究へと発展させた。私の代になり、そろそろ睡眠研究を始めて百年になる。祖父の時代の書籍、父の時代の映像を振り返り、日本の睡眠研究の90年を総括する。

そして、一般向けに活動量計を使い睡眠環境コンサルティングサービスを行う新規事業をご紹介しつつ、睡眠研究の未来を考えてみたい。



共催：日本睡眠学会第42回定期学術集会

富士通株式会社／西川産業株式会社／株式会社MAGnet／パシフィックメディコ株式会社
／大陽日酸株式会社／株式会社プロアシスト／キッセイコムテック株式会社